

「附中の核となるもの—平成 30 年 9 月 2 日学園祭打ち上げ校長挨拶—」

皆さん。学園祭、準備も含めてお疲れ様でした。そうしてありがとうございました。いい学園祭だったと思います。こんなに短い時間でよくここまで仕上げたなあ、と感心しております。これは先生方の御指導の賜物であると同時にやはり生徒が素晴らしいからだと思います。閉会式が終ったあと、保護者の方が私を訪ねてきて、「すばらしい学園祭でした。自分の子がこのような学校で学べることをうれしくおもいます」と仰っていました。

これからも改革と業務改善の二つを並行させて走らせなければなりません。その場合に核となるものがが必要です。その核に従って取るべきものは取り、捨てるべきものは捨てるというようにしなければなりません。その核となるものは学びの深さだと思います。深い学びのためには、深い感動、体験とともにそれに見合う言葉が必要です。どちらが欠けても学びにはなりません。

人間は本能では生きません。人間は記憶と希望によって生きます。記憶は過去で希望は未来です。ですが記憶と希望は現在の学びから生まれます。この学びが深ければ記憶も希望も深まり、人生が深まります。この現在の学びを深いものにするのが深い感動、体験と、それに見合う言葉です。目の前の「生徒のすがた」や「力」にとらわれることなく、生徒の学びを深めることだけを念頭に置いて、改革と業務改善を並行して行うという難局を乗り切っていけば、と思います。そうしてできた時間を、先生方ご自身を深め、学問を深める時間に充てていただければと思います。

本当にお疲れ様でした。今日は充分にくつろいで、そうしてゆっくりと休まれてください。